

## 平成30年度第1回春日井市総合教育会議 会議録

1 開催日時 平成31年2月13日（水）午後1時～2時

2 開催場所 春日井市役所 9階 教育委員会室

3 出席者

【市長】 伊藤 太  
【教育長】 水田 博和  
【教育委員会委員】 野田 芳雄  
【教育委員会委員】 小塩 泰代  
【教育委員会委員】 岡島 章  
【教育委員会委員】 大野 みどり

【事務局】 教育部長	松原 眞一
教育総務課長	北野 将好
学校教育課長	田中 芳樹
同主幹	富澤 達成
同指導主事	兒島 靖
同課長補佐	大城 達也
教育総務課課長補佐	渡邊 直美
同庶務担当主査	清水 聡

4 協議事項

(1) 春日井市小・中学校部活動ガイドライン（案）について

5 会議資料

資料1 春日井市総合教育会議名簿  
資料2 春日井市小・中学校部活動ガイドライン（案）  
資料3 春日井市小・中学校部活動ガイドライン概要版

6 協議概要

(1) 春日井市小・中学校部活動ガイドライン（案）について

市長 春日井市総合教育会議 会議要綱第4条第2項の規定により、議事録署名人については、水田教育長を指定。

学校教育課長 資料に基づき、説明。

市長 まず、春日井市小・中学校部活動ガイドライン（案）のうち、生徒のニーズを踏まえた環境の整備について、教育委員会委員のみなさんからご意見を伺います。

岡島委員 今までより学校の活動時間が減り、家庭や地域で過ごす時間が増えることになりますので、その受け皿をきちんとすることが大事です。  
そのために、まず、今後子どもたちの参加が増加すると予想される地域のスポーツや文化などの団体に対して、市としての支援、団体の活動場所や施設の整備充実等をお願いしたいと思います。  
次に、そのような団体等の指導者と、学校の部活動顧問の先生との間で意思疎通を緊密に図るとともに、意思疎通、意見交換を行う協議会などの場を設ける必要があります。

小塩委員 岡島委員の言われるように、地域での受け皿が大事です。  
部活動ガイドラインの実施によって生じる空いた時間を、今後は自分で考えて有効に活用することとなり、自主性を伸ばしていこうとする方向性は望ましいと思います。  
しかし、そうなった時に、例えば、体育館の使用法や地域の公園ではバットが振れるのか、小さい子どもとどうやってうまくバランスをとっていくのかなど、「活動する場」の不均衡が顕在化し、地域格差が生じないかという懸念があります。  
子どもたちに、どこでどんなことができるのかということを知りやすく示し、また、空いた時間を有効に活用できるよう、説明、指導を充実させてほしい。

大野委員 ガイドラインの「生徒のニーズを踏まえた部活動の設置」で、生徒の運動機会の創出が図られるようにすることはとても大切です。ただ、運動機会の創出を目的とした「総合運動部」や「レクリエーション部」に、運動の得意でない子どもたちを始め、本当に魅力を感じて入部する子どもたちがいるのか、また指導員も確保できるのか心配です。

野田委員 この新聞に、高校生たちが自分たちでヨガを楽しんでいる記事が掲載されています。大野委員の発言にありました「総合運動部」や「レクリエーション部」については、ヨガ等のように体を激しく動かさない運動もありますし、運動でなくてもいいのではないのでしょうか。そ

れぞれ自分に合った運動に移行していくのもいいと思います。

他市町においても教師の多忙化解消に積極的に取り組んでいるなか、時代の流れとして、部活動ガイドライン策定の必然性は高いと思います。運動の指導にしても、私の世代は根性が前面に出されていましたが、時代は変わりました。今は、子どもたちの個性を生かし、科学的な根拠に基づいた短時間で効率的な指導へと変わってきています。そのような指導方法を、指導者が学べる機会を作ることが大切だと思います。

市長

岡島委員からは、受け皿という点において、地域の人や団体との連携・連絡が必要で、また、地域の指導者と学校の先生との連携がより重要というご意見をいただきました。

小塩委員からは、同じ受け皿という点において、施設や公園といった場所・環境の整備が必要であり、そして利用者の年齢も広がるためバランスを考えなくてはならない。また、時間の有効な過ごし方のアドバイスや支援が大切だのご意見をいただきました。

大野委員からは、総合運動部等の必要性もわかるが、入部してくる子が何を求めているのかを考慮し、活動の内容、仕方を考える必要があるとのご意見をいただきました。

野田委員からは時代の流れ、教員の多忙化解消の点からガイドラインを作ることは必要であること、また、指導者が科学的な指導方法を学ぶ機会が必要とご意見をいただきました。

ご意見に関して、事務局から発言をお願いします。

学校教育  
課主幹

岡島委員からの地域と学校の連携については、地域の指導者と学校の指導者が同じ歩調でいくことは大切ですので、連携できる場を設ける方向で検討を進めていきたいと考えております。

小塩委員からの自主的に活動できる場所については、当面は学校を始めとする既存の施設を活用しながら、子どもたちが自主的に活動できる場所を検討し、子どもたちに周知していきたいと考えます。余暇の有効な過ごし方については、学校や教育委員会が率先し指導していきます。

大野委員からの子どもたちのニーズに合った部活動については、大切なことは、子どもたちや保護者のニーズに合った部活動ということです。運動が得意な子も不得意な子もいるなかで、学校の部活動が合わない子どもたちの受け皿になる部活動があってもいいと思います。一方、アスリートを目指し学校の外で活動する子どもたちの場合は、学校の部活動と両立が難しいので、体力づくりができる部活動であれ

ば入りやすいと考えています。

部活動指導員の導入については、すべての教員が手を引くという意味ではなく、教員と部活動指導員が手を携えながら部活動指導をしていくものです。

野田委員からの指導者の育成については、教員だけでなく、新たに部活動指導員になる方に対して、しっかりとした研修をしていかなくてはならないと考えています。まず、ガイドラインを理解してもらったうえで、効率的な活動、子どもたちの安全、保護者への対応など教員と変わらぬ力量を兼ね備えてもらえるよう、学校と協力をしながら定期的に研修会を実施するなど、部活動指導員の育成に努めていきたいと考えています。また、専門的な機関からも効率的な指導について研修できる機会を設けていきたいと考えております。

野田委員 学校の現場では、自主的に熱心に部活動で指導をしてくださる先生方もたくさんみえます。部活動の指導を制限する雰囲気があると、先生のやる気が萎えてしまうことも考えられますので、その点において配慮してもらいたい。

小塩委員 実際に高校へ進学するうえで、部活動の大会等での成績が高校入試に影響している現状を考えると、部活動を制限することによって変わる評価の基準について、見直して示していただく必要があると思います。

大野委員 部活動ガイドラインについて、保護者、地域の方、先生などに納得していただけるよう、丁寧に説明する必要があります。また同時に、放課後の過ごし方についても、地域のボランティア活動を推奨するなど、子どもたちにしっかり指導していただきたいと思えます。

教育部長 学校は義務教育がその基本にあるなか、学校の部活動が一部過熱している事実もあることから、部活動ガイドラインを策定したという経緯があります。また、成長期にあたる子どもたちには、いろいろな方面に目を向け創造的に時間を過ごしてもらい時間を確保してもらいたい。そして、先生方にはしっかりした授業を準備するための時間を確保してもらいたい等、事務局としての思いもあります。

今後の部活動のあり方については、十分な周知をしていく中で、いろいろなご意見をいただきながら絶えず検証し、改正を重ねていきたいと考えています。

教育長

部活動ガイドラインは、まず学校の先生、特に中学校の部活動を指導している先生方にきちんと理解してもらうことがスタートだと思っています。

指導の仕方については、短時間で効果のある指導方法は必ずあり、それをこれから先生が探していかななくてはなりません。休養の大切さ、勉強をすることの大切さを含め、部活動指導をしていく必要があると思います。

部活動の時間がなくなった空いた時間をどうしたらいいのかという問いかけに対しては、時間をかけて探しながら、その過ごし方を説明していく必要があります。

昨今、コンピューターゲームを使った競技をスポーツとして捉える「eスポーツ」、他にもレクリエーションスポーツ、ニュースポーツなど新しい分野があります。それらすべてを含め、例えば拠点となる学校に集まって活動するなかで、将来世界で活躍できる選手が育つかも知れません。今後、部活動のあり方については、春日井らしさを発信していけるよう時間をかけて取り組んでいきます。

野田委員

部活動ではありませんが、学校に残って勉強したいときに勉強できる場所はあるのでしょうか。自分でやりたいことを見つけるには空間が必要になります。「場所」の確保に配慮してあげたいと思います。

岡島委員

そもそも部活動を見直そうという機運が出てきたのも、働き方改革の一環で、一部の教員の長時間労働は問題だということがあったと思います。部活動ガイドラインには、長時間労働等のことはあまり書かれておらず、子どものためだということが強調されていますが、やはり教員の長時間勤務という課題の解消という面があるということ、正面から言っていないと理解されないのではないのでしょうか。

市長

委員の先生方のお話をいただいたうえで、わたしの意見を述べさせていただきます。一つの例として、高校野球において、部活動を毎日やることはいいことで、強くなるという慣れがあったことは事実です。しかし、一日休養日をとることにより結果的に野球部が強くなったという話を聞きます。それは、野球だけをやるのではなく、リフレッシュしたりして、少し違った目で自分の野球部の練習の仕方、取り組み方を見ることによって、より成長することができるのだと思います。

少し前になりますが東邦高校の阪口監督、星稜高校の山下監督、箕島高校の尾藤監督など有名な監督の方々は、厳しい指導で有名でした。そこで、一番不思議に思うことは、阪口監督があるとき生徒が失敗し

たのを叱ったときの自分の怒った顔をテレビで観てからは、できるだけ笑顔で接するようにし、また、休養日を設けたことで、甲子園で優勝することができたということです。また、野球の試合で山下監督は尾藤監督にどうしても勝つことができませんでした。ところが、ある時、山下監督は、生徒が失敗しても尾藤監督は和やかな笑顔でいることに気づいてからは、毎朝鏡で顔を見ていい表情しているかを心がけるようにしたそうです。山下監督は、指導の在り方を尾藤監督から学んだのです。

指導者の育成について、委員の先生からお話がありましたが、指導者は一生懸命のあまり、つい教えることだけに偏りがちです。子どもたちを教えながらも、子どもたちが考える時間を持つことが大切だと思います。同時に、生徒、保護者、先生に対して、部活動を制限するのではなく、時間の有効活用や違うかたちの時間の使い方があるということをも十分説明する必要があると思います。部活動の在り方には多様性がありますので、なにがいい、なにが悪いということではありません。ただ、一つの大きな流れとして、学校の先生の時間の有効活用、先生の多忙化に対する時間の使い方、その結果として指導の仕方についても考えていく必要があると思います。

確かに空いた時間の受け皿は必要です。例えば、学校で部活動をするだけではなく、家に帰って野球の本を読んだり、総合運動部で筋トレなど違うかたちの運動をすることで結果的に野球につながり強くなることもあります。先ほど教育長が言われたように、昨今はニュースポーツなどもあり、それによって、自分の特性をみつける人がいるかもしれません。

もう一つ、部活動指導員について、外部指導者の身分も明確になりましたので、それを加味し、しっかり活用していく必要があります。例えば、指導者は一つの運動に精通していますが、子どもの接し方や指導は苦手かもしれません。指導者の適正をよく見てほしい。これが教育委員会が実践する大きな仕事の一つだと思います。先生の手を離れてお願いするので、部活動指導者の位置づけ、接し方をしっかり見極めていくことが大切です。

部活動ガイドラインの策定は、春日井市の大きな前進です。これをどう生かすのか、先生、保護者、子どもたちによく理解していただくことが大切です。

市 長           平成 30 年度第 1 回春日井市総合教育会議を閉会いたします。  
                  ありがとうございました。